

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 守恒 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）	
①	身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査	
<input type="radio"/>	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

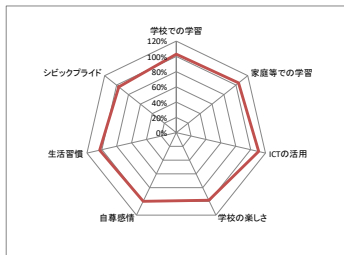
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全ての問題で全国平均正答率を上回っている。無回答も著しく低いことから、諦めずに主体的に取り組んでいることが分かる。記述式の問題では、若干無回答率が高くなっている。知識・技能を問う内容の正答率は高いが、思考・判断・表現力を問う内容では課題がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくてきた問題	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる問題	
努力が必要な問題	主に、思考力・判断力・表現力等の内容で、話すこと・聞くことに関する領域の問題 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題		

算数	全体的な傾向や特徴など	「データの活用」を問う問題を除き、全ての問題で全国平均正答率を上回っている。無回答率も、すべて全国平均を下回り、主体的に問題に取り組むことができる。 「数と計算」の領域で正答率が高い。「データの活用」の領域で課題がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくてきた問題	数と計算領域の問題で、数量の関係を、□を用いた式に表すことができるかどうかをみる問題	
努力が必要な問題	データの活用領域の問題で、円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる問題 折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかをみる問題		

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析

- ・一昨年度まで課題であった「ICTの活用」が昨年度に引き続き、今年さらには大幅に改善された。学校及び家庭の両方においてICTを活用した学習が自然に行われるようになった。
- ・「授業の中でまとめる活動を行っている」「総合的な学習の時間で、自分で課題を立てて情報を整理して、調べたことを発表する学習活動を行っている」の問いに対して肯定的な回答をした児童の割合が、全国平均と比べて著しく高い。児童間の「学び合い」（子ども同士の対話）を中心とした授業づくりを行ってきた成果と考え、今後も引き続き取り組んでいく。
- ・「学校に行くのは楽しいか」の問いに対しては、全国平均を大きく上回っているが、その一方「友達関係に満足しているか」の問いに対しては、やや下回っている。日頃と変わった様子はないか等に子どもの様子に注視し、子どもの心に寄り添った関わり方を行っていくようにする。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 「子ども同士の学びあい」・・・主体的・対話的な学びの実現のための、子ども達の協働的な学びの推進。
- 「学習スタイルの共通化」・・・①守恒スタンダードの職員による共通理解（めあて・まとめの提示、考える時間（学びあい）とふりかえりの時間の確保。ノート形式の統一、ふりかえり視点の提示等）
- 「学びを深めるためのICTの活用」・・・低学年からのGIGA端末活用の練習、AIDリルの活用、調べ活動・話し合い・発表の場における活用
- 「職員研修の取組」・・・①毎月1回の学力向上推進委員会の実施。取組についての実施状況確認と成果及び課題の整理。取組の見直し。②授業研究会の定期的な実施による授業力の向上。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 学年に応じた家庭学習への取組について担任が把握し、校内に掲示するなどする。
- 学校だより（保健だより・給食だより含む）、学年だより、学級だより等で子ども達の様子を発信する。
- 6年生の中学校訪問（文化祭・体育祭）等を通じて、中学校生活について知ることができる機会づくりを行う。